子どもの抱える困難俯瞰図

平成 28 年 10 月 19 日
大田区総合教育会議資料 1

子どもの生活空間	子どものために果たすべき役割	現状の問題点	原因	対応策
1　家　庭 ＊　一体であると同時に別人格の集合体であるという矛盾	**Ⅰ　インキュベーターとしての家庭（基本的役割）** 1　愛着（アタッチメント）形成、基本的自己肯定感を育む。 2　子どもの気持ちに寄り添う 3　子どもの生きる力を育てる 4　居場所の提供 5　しつけ、役割遂行訓練 6　様々な体験をする機会を与える 7　家庭での学習を支援する 8　体力づくり（身体活動：運動と生活活動、家庭での身体を使う動作の確保） など	**Ⅰ　社会単位としての家庭の階層分化・弱体化・崩壊（養育機能の弱体化、機能不全親の世代間連鎖）** 1　幼児期を中心とした愛着形成が不足。基本的自尊感情が十分育まれていない 2　親子の触れ合いが不足、コミュニケーション不足 3　虐待（心理的、ネグレクトを含む） 4　しつけの不足 5　家庭でのお手伝いを通じた子どもの役割遂行訓練が不足 6　親によるストレス 7　ひきこもり 8　家庭での居場所のなさ 9　ゲームやスマホへの依存 10 家庭での子どもの身体活動（生活活動）の減少 11　朝食抜き、遅い夕食、孤食など 12　肉食にウェイト、偏食、スナック菓子など 13　成長に必要な栄養の不足 など	1　親としての機能不全、自覚の欠如・不足 2　親の役割の知識・理解不足・欠如、手加減を知らない 3　親より個人の都合を優先 4　核家族化で身近な相談者の不足・欠如による子どもに対する不安・ストレスの捌け口化 5　共働きやひとり親による親の多忙化 6　よかれと思う親の考え・価値観の押しつけ（動機は＋、結果－）、監護者である親が支配者として機能 7　カウンセリングマインド・スキルの不足 8　ゲーム・スマホ利用の家庭内ルールの未確立 9　省力型機器の普及 10　貧困 など	**Ⅰ　親育ての必要性、社会単位として危機にある家庭の機能をどう守るか（方向性）** 1　身近に相談できる人の確保・育成、公的・支え合いによる相談窓口の充実 2　親に対するカウンセリングマインド・スキルの育成（寄り添う心、プラス刺激の提供） 3　子育て（家庭教育）の手引きの作成（「普通の家庭」に対する指南書） 4　子ども本人の「生きる力」（エンパワーメント）の獲得支援 5　子どもに家庭内での役割を与える。自己有用感の醸成。 6　危機にある家庭への介入的支援の強化（法制度の整備を含む） 7　公的支援の強化（個に応じた学力等の育成、家庭の外での居場所づくり、など） など
2　学　校	1　学力・体力・豊かな心の育成 2　生涯を通じた生きる力の育成 3　子どもの居場所となり、楽しく過ごせる場であること 4　教職員が子どもの心に寄り添う 5　子ども一人ひとりの状況を把握し、的確に対応する。 6　家庭の状況を把握し、必要な支援を行う、関係機関につなげる 7　生活面の指導を行う など	1　学力が低位な子どもの存在 2　自己肯定感の低い子どもの存在 3　いじめ（被害側だけでなく、加害側の問題） 4　教師による体罰、不適切な言動 5　不登校など他者や社会との関係不全（柏木） 6　体力が低位な子どもの存在、二極化 7　小１ギャップ、中１ギャップの存在 など	1　子どもの個性や発達段階の違いと一斉授業・画一的な管理指導とのギャップ 2　学級あたりの子どもの数の多さ 3　子どもの発達段階に応じた個別指導の不足 4　教師の指導力の不足 5　保護者の家庭の教育に対する理解や取組の差 6　いじめる側が家庭などで受けるストレスの発散（養育環境の問題） 7　教師の自覚の不足 8　個人的な性格・気質 9　家庭における夜更かしなど不規則な生活 10　学校におけるいじめなど 11　運動経験の不足などによる苦手意識 12　校種間での環境や学習内容の変化	Ⅰ　子どもの個性に応じた個別指導・支援の推進（方向性） 1　明るく居心地の良い学級づくり 2　学級あたりの児童生徒数の削減、少人数指導の拡充（TT を含む） 3　補習授業の充実、家庭における学習の強化 4　自発的な個別学習の推進（ICT の活用など） 5　教師の教育力（授業力など）の育成 6　教職員のカウンセリングマインド・スキルの育成 7　子ども自身の「生きる力」の醸成 8　家庭における子どもの状況把握とカウンセリングの実施 9　運動の楽しさの体験機会の提供 10　保幼小、小中一貫教育の推進

			など	など
3　地　　域	1　子どもが多様な人間関係を経験できる 2　子どもの体験活動の機会を提供 3　地域が子どもにとって安全・安心な場となるよう環境整備する 4　子どもを見守る 5　子どもが育つ場である家庭や学校への支援を行う など	1　地域の人と子どもが顔なじみでなく、声かけがしにくい 2　地域の人間関係が疎遠になりがち 3　日中、地域にいるのは高齢者が多く、親世代などが少ない 4　不審者による声かけや猥褻行為、誘拐事件の発生 5　交通事故の発生 6　子どもが遊べる、運動できる空間が少ない など	1　日ごろの交流が不足している 2　コミュニティの衰退 3　共働き、地域における雇用機会の不足 4　地域の公共空間における死角の存在 5　公園などの不足、使用制限 など	1　地域の大人と子ども、年齢の異なる子ども同士の交流機会の充実 2　地域における雇用の創出（コミュニティ・ビジネスなどへの支援） 3　親の相談に乗れる地域人材の育成強化（そのための講座の設置） 4　学校支援地域本部の強化 5　子どもの視点による地域の点検と改善 6　見守り活動の強化、子ども SOS の家が機能する手立てを講じる 7　地域における居場所づくり 8　自立支援ルームの設置 9　子どものための空間の優先確保 など
4　社　　会	1　ゆとりある、ストレスの少ない大人にも子どもにもやさしい環境の提供 2　子どもが健全に育つ環境を整える。有害な環境を規制する 3　子どもに明るい展望を指し示す 4　安定的な雇用の場を提供する 5　大人が範を示す 6　豊かな自然や遊び場を提供する 7　子どもにとってイコールフッティングな条件の提供 など	1　過度な競争の進行 2　ストレス社会 3　子どもが心身ともに健全に育つ環境が不足している 4　バーチャル空間などで暴力的な刺激に晒されている 5　非正規雇用や技術革新による仕事の変動など、将来の見通しが立ちにくい 6　子ども社会が大人社会を反映している 7　都市化が過度の進行している 8　親の所得格差が子どもにも反映 9　仕事において、困難な課題を忌避し、退職や配置転換を希望する など	1　グローバル化の下で、競争意識が前面化 2　労働力の効率的消費のために、労働強化が行われる方向にあり、ストレスを溜めがち 3　まちづくりが障害のない大人目線で行われており、また子どもの精神面へのサポートも十分行われていない 4　ニュースなどを通じて、悲惨な事件が子どもにも認知され、それが子どもの行動にも影響を与えている 5　大人社会にも「いじめ」が蔓延している 6　効率的な土地利用のため、都市に「ムダな」空間が少ない 7　親の所得格差に影響を受けない子ども施策が十分でない 8　困難を乗り越える体験の不足 9　困難を乗り越えることに価値を見いだせない心理、ハングリー精神の欠如 など	1　競争面と共生面の調和 2　労働力の適正使用が却って、労働力の十分な発現を生むことの認識の広がり 3　ユニバーサルデザインによるまちづくりの推進 4　DV・パワハラ・セクハラなどの防止への取組の推進。当事者への啓発の推進 5　子どものための意識的な都市空間の確保 6　給付型奨学金の創設 7　学校などにおいて困難を乗り越える体験機会を提供する 8　発展途上国の人々の生き様を知る（別の価値観に触れる）、生活環境を変える 9　スポーツ選手などの手本を学ばせる など

（注 1）　子ども自身の変化と子どもを取り巻く環境の問題

1　子ども自身の変化

『近年、子どもが変化したといわれる。（中略）「キレやすくなった」「我慢ができなくなった」「人づきあいが下手になった」「お手伝いをしなくなった」「外遊びをしなくなった」「不器用になった」（中略）子どもの変化も、社会や家族の大きな変化の流れのなかでとらえることが重要である。』（『やさしい発達と学習』〔有斐閣アルマ〕）

（注 2）　「生きる力」について